

もしらぬ者の唱と、南無大方広仏華嚴經と心もしらぬ者の唱と齊等なりや、淺深の功德差別せりや。答云、淺深等あり。疑云、其心如何。答云、小河は露と涓と井と渠と江とをば收れども大河をさめず。大河は露乃至小河を撰れども大海をさめず。阿含經は井・江等、露・涓をさめたる小河のごとし。方等經・阿弥陀經・大日經・華嚴經等は小河をさむる大河なり。法華經は露・涓・井・江・小河・大河・天雨等の一切の水を一滯ももらさぬ大海なり。譬へば身の熱者の大寒水の辺にいねつればすずしく、小水の辺に臥ぬれば苦がごとし。五逆・謗法の大一闡提人、阿含・華嚴・觀經・大日經等の小水の辺にては大罪の大熱さんじがたし。法華經の大雪山の上に臥ぬれば五逆・誹謗・一闡提等の大熱忽に散ずべし。されば愚者は必法華經を信ずべし。各各經々の題目は易き事同じといへども、愚者と智者との唱功徳は天地雲泥なり。譬へば大綱は大力も切がたし。小力なれども小刀をもてたやすくこれをきる。譬へば堅石をば鈍刀をもてば大力も破がたし。利剣をもてば小力も破ぬべし。譬へば薬はしらねども服すれば病やみぬ。食は服ども病やまず。譬へば仙薬は命をのべ、凡薬は病をいやせども命をのべず。疑云、二十八品の中に何か肝心。答云、或云、品々皆事に隨て肝心なり。或云、方便品・壽量品肝心なり。或云、方便品肝心なり。或云、壽量品肝心なり。或云、開・示・悟・入肝心なり。或云、實相肝心なり。問云、汝が心如何。答云、南無妙法蓮華經肝心なり。其証如何。答云、阿難・文殊等、「如是我聞」等云云。問曰、心如何。答云、阿難と文殊とは八年が間、此法華經の無量の義を一句一偈一字も残さず聴聞してありしが、仏の滅後に結集の時、九百九十九人の阿羅漢が筆を染てありしに、妙法蓮華經とか、

せて「如是我聞」と唱させ給しは、妙法蓮華經の五字は一部八卷二十八品の肝心にあらずや。されば過去の燈明仏の時より法華經を講ぜし光宅寺の法雲法師は、「如是とは將に所聞を伝えんとして、前題に一部を挙ぐるなり」等云云。靈山にまのあたりきこしめしてありし天台大師は、「如是とは所聞の法体なり」等云云。章安大師云、「記者釈して云く、蓋し序王とは經の玄意を叙し、玄意は文心を述べ」等云云。此釈に文心者題目は法華經の心也。妙樂大師云、「一代の教法を収むること、法華の文心より出ず」等云云。天竺は七十箇国なり。摠名は月氏国。日本は六十箇国、摠名は日本国。月氏の名の内に七十箇国乃至人畜珍宝みなあり。日本と申す名の内に六十六箇国あり。出羽の羽も奥州の金も、乃至、国の珍宝人畜、乃至、寺塔も神社もみな日本と申二字の名の内に撰れり。天眼をもつては日本と申二字を見て十六国乃至人畜等をみるべし。法眼をもつては人畜等の「此に死し彼に生る」をもみるべし。譬へば人の声をきいて体をしり、跡をみて大小をしる。蓮をみて池の大小を計、雨をみて竜の分ぎをかんがう。これはみな一切の有りことわりなり。阿含經の題目には大旨一切はあるやうなれども但小釈迦二仏ありて他仏なし。華嚴經・觀經・大日經等には又一切有やうなれども、二乗を仏になすやうと久遠実成の釈迦仏なし。例せば華さいて菓ならず、雷なつて雨ふらず、鼓あてて音なし、眼あてて物みず、女人あてて子をうまず、人あてて命なし、又神なし。大日の真言・藥師真言・阿弥陀の真言・觀音の真言等又かくのごとし。彼の経々にしては大王・須弥山・日月・良藥・如意珠・利劍等のやうなれども、法華經の題目に対すれば雲泥勝劣なるのみならず、皆各々当体の自用を失ふ。例せば衆星の光の一日輪にうはは